

## 9 都市農業について

### （1）千葉県都市農地の保全意向

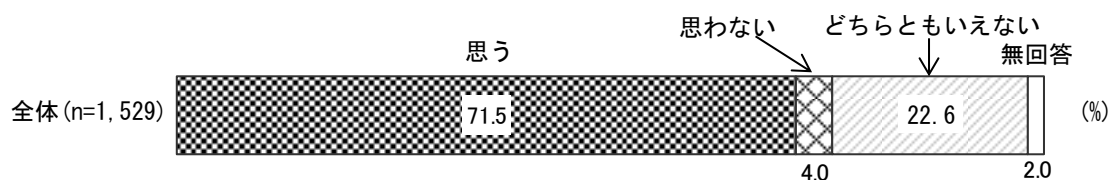
◇「思う」が7割を超える

県では、都市農業を支える様々な担い手を支援するとともに、都市農業や都市農地がもっと身近なものとなるよう理解の醸成を図っており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします

（※）「千葉県内の市街地及びその周辺の地域で行われる農業・農地」を本調査では、都市農業・都市農地と呼びます。

問45 あなたは、千葉県に都市農地を残したいと思いますか。（○は1つ）

<図表9-1> 千葉県の都市農地の保全意向



千葉県に都市農地を残したいと思うか聞いたところ、「思う」（71.5%）が7割を超えている。一方、「思わない」（4.0%）は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」（22.6%）は2割を超えている。（図表9-1）

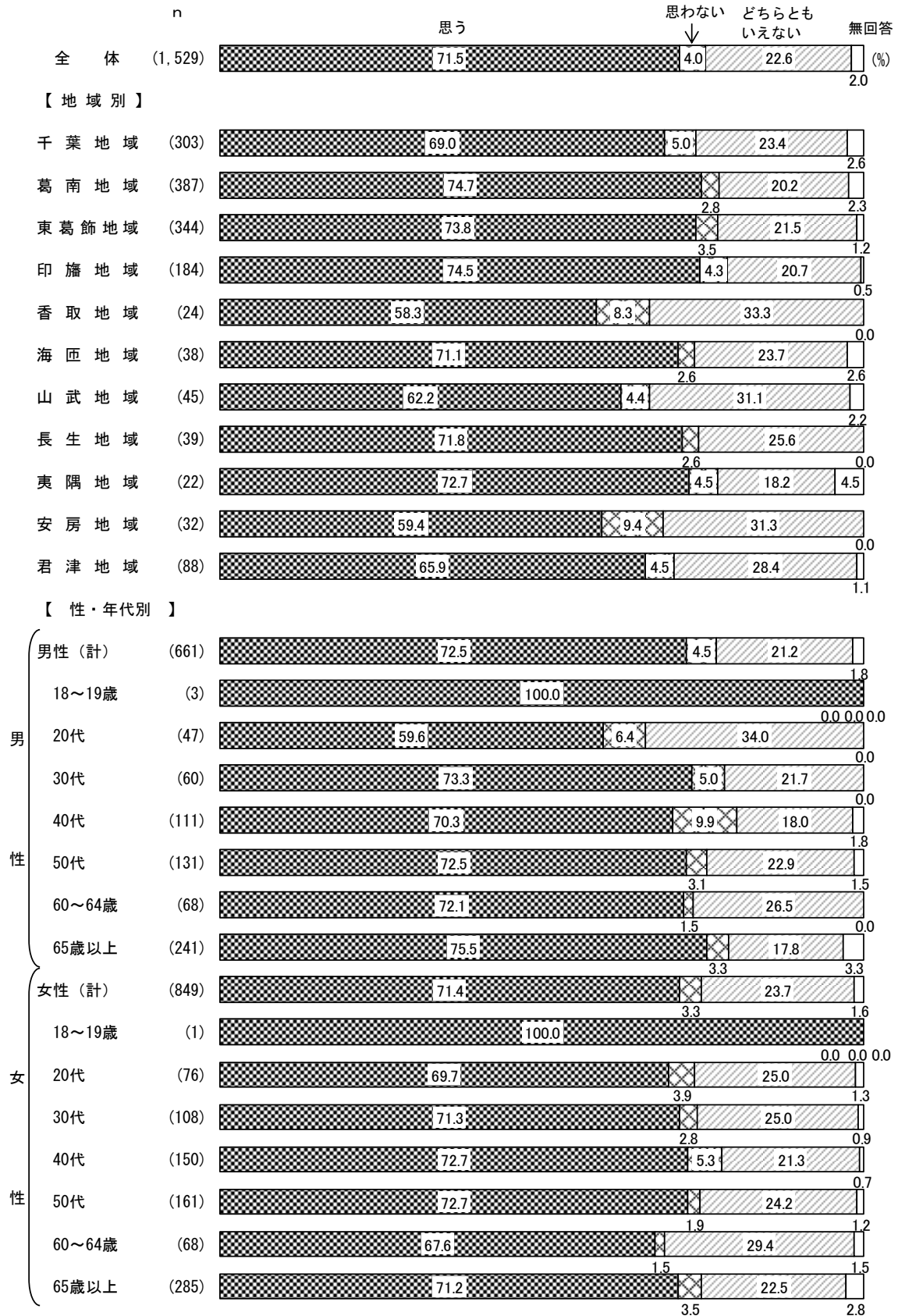
#### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表9-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表9-2）

<図表9-2>千葉県都市農地の保全意向／地域別、性・年代別



## （2）千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割

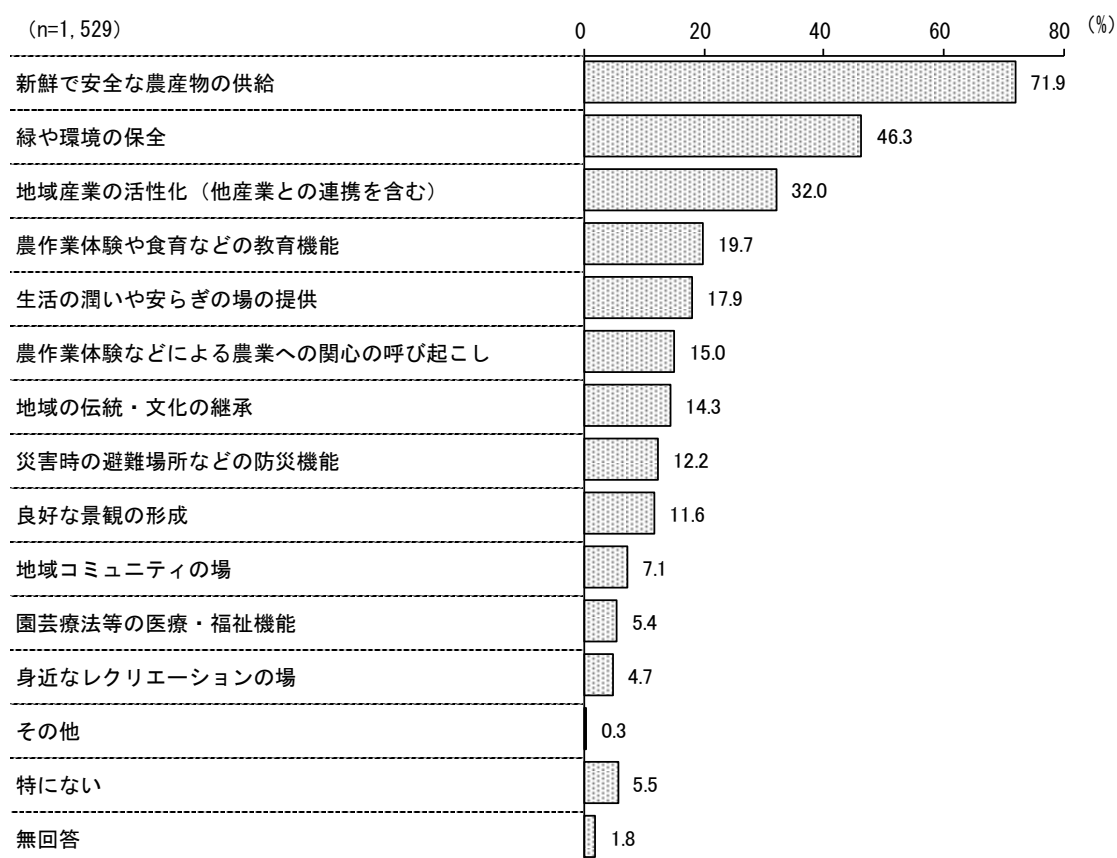
◇「新鮮で安全な農産物の供給」が7割を超える

問46 あなたは、千葉県の都市農業・都市農地にどのような機能や役割を期待しますか。

（○は3つまで）

<図表9-3>千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割

(n=1,529)



千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割について聞いたところ、「新鮮で安全な農産物の供給」（71.9%）が7割を超えて最も高く、以下、「緑や環境の保全」（46.3%）、「地域産業の活性化（他産業との連携を含む）」（32.0%）、「農作業体験や食育などの教育機能」（19.7%）が続く。（図表9-3）

### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表9-4）

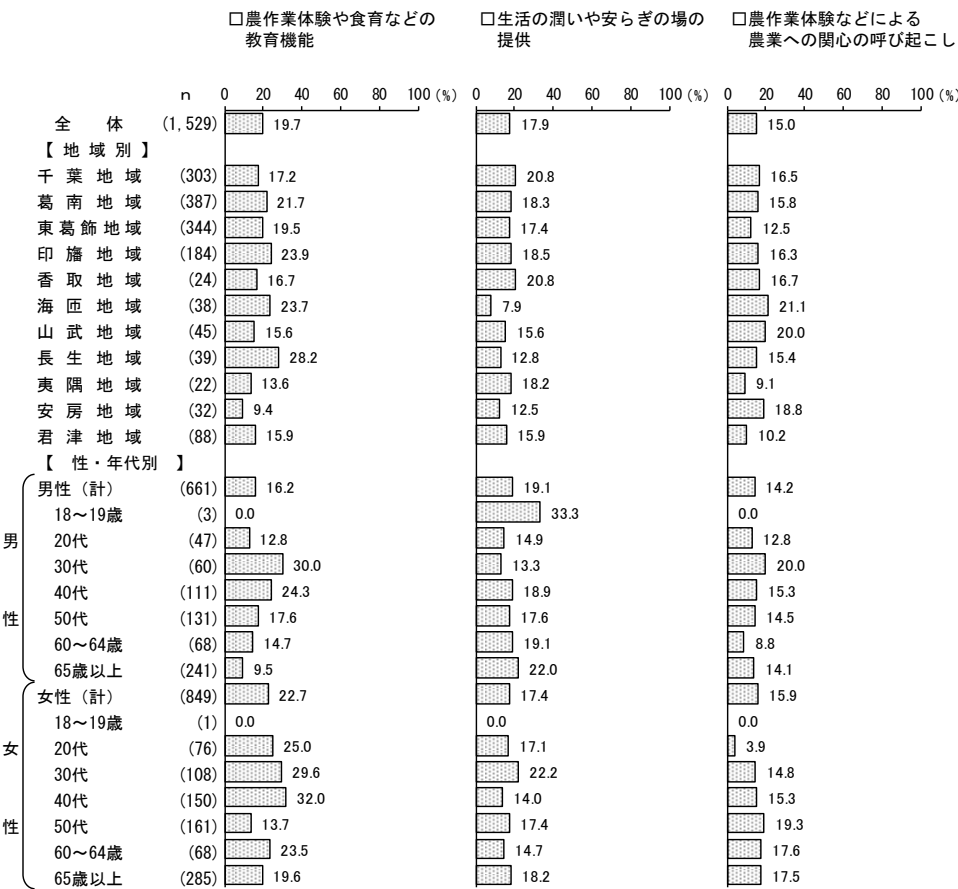
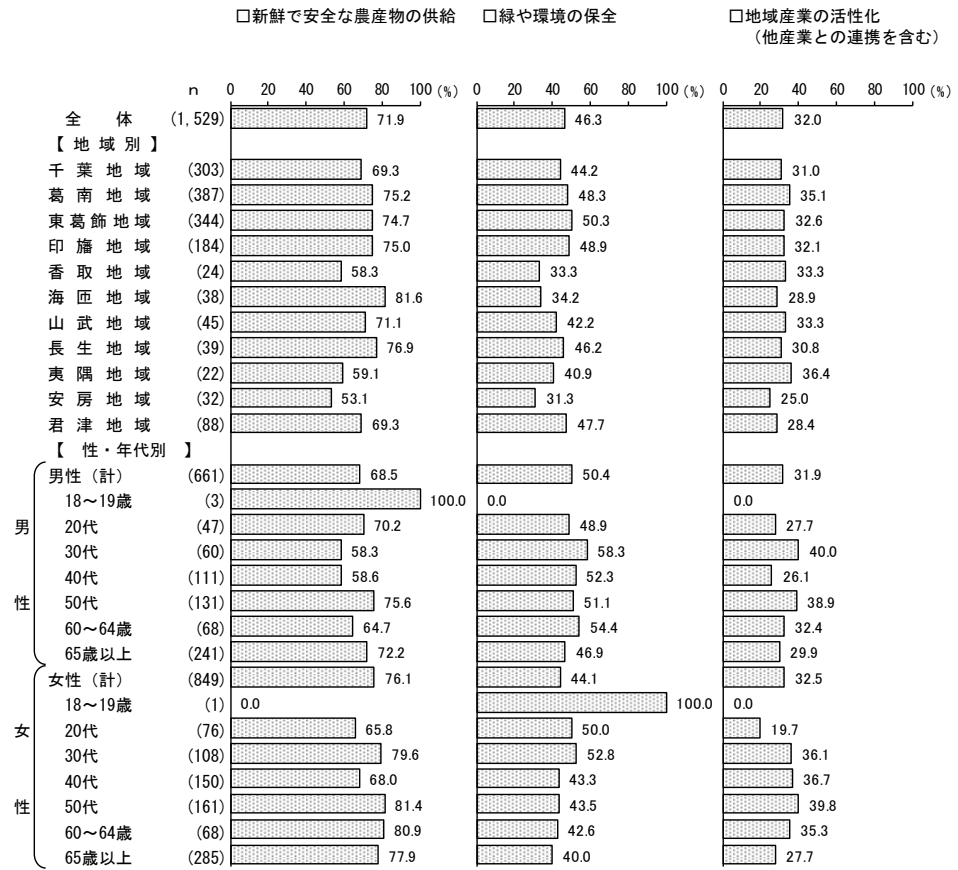
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「新鮮で安全な農産物の供給」は女性の50代（81.4%）が8割を超え、女性の65歳以上（77.9%）が約8割で高くなっている。

「地域産業の活性化（他産業との連携を含む）」は女性の50代（39.8%）が約4割で高くなっている。

「農作業体験や食育などの教育機能」は女性の40代（32.0%）が3割を超え、男性の30代（30.0%）が3割、女性の30代（29.6%）が約3割で高くなっている。（図表9-4）

<図表9-4> 千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割／地域別、性・年代別



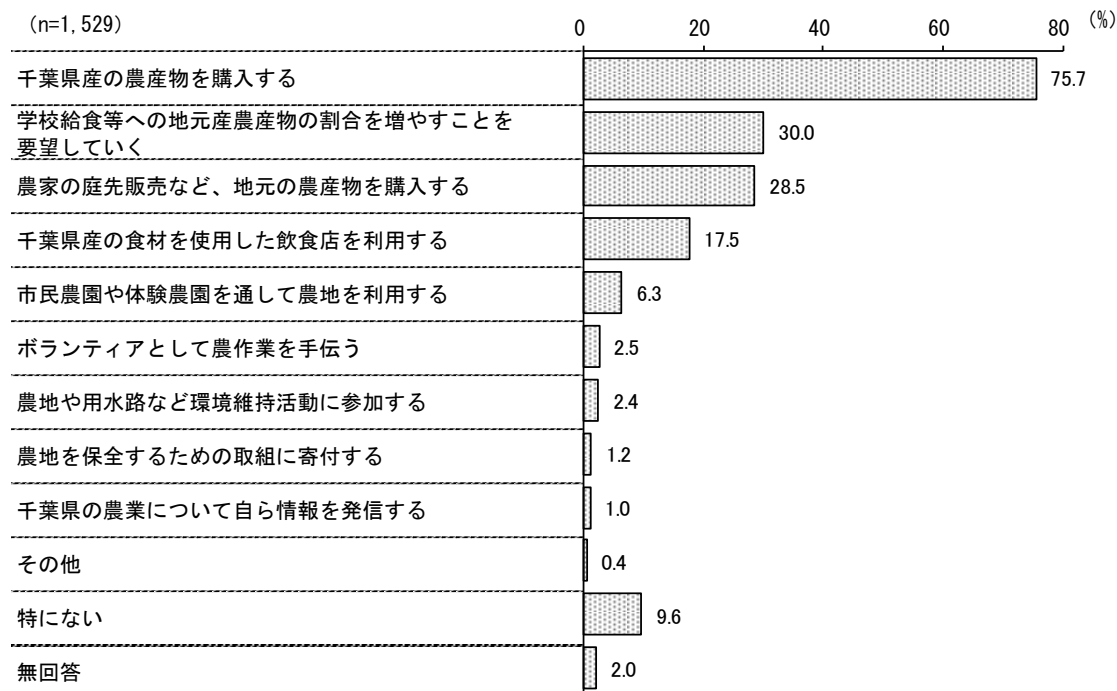
### （3）都市農地を守るために行いたい支援

◇「千葉県産の農産物を購入する」が7割台半ば

問47 あなたは、都市農地を守るために、どのような支援を行いたいと思いますか。

（○は2つまで）

＜図表9-5＞都市農地を守るために行いたい支援



都市農地を守るために行いたい支援を聞いたところ、「千葉県産の農産物を購入する」（75.7%）が7割台半ばで最も高く、以下、「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」（30.0%）、「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」（28.5%）、「千葉県産の食材を使用した飲食店を利用する」（17.5%）が続く。（図表9-5）

#### 【地域別】

地域別にみると、「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」は“夷隅地域”（50.0%）が5割で高くなっている。

「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」は“長生地域”（43.6%）が4割台半ば、“印旛地域”（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。（図表9-6）

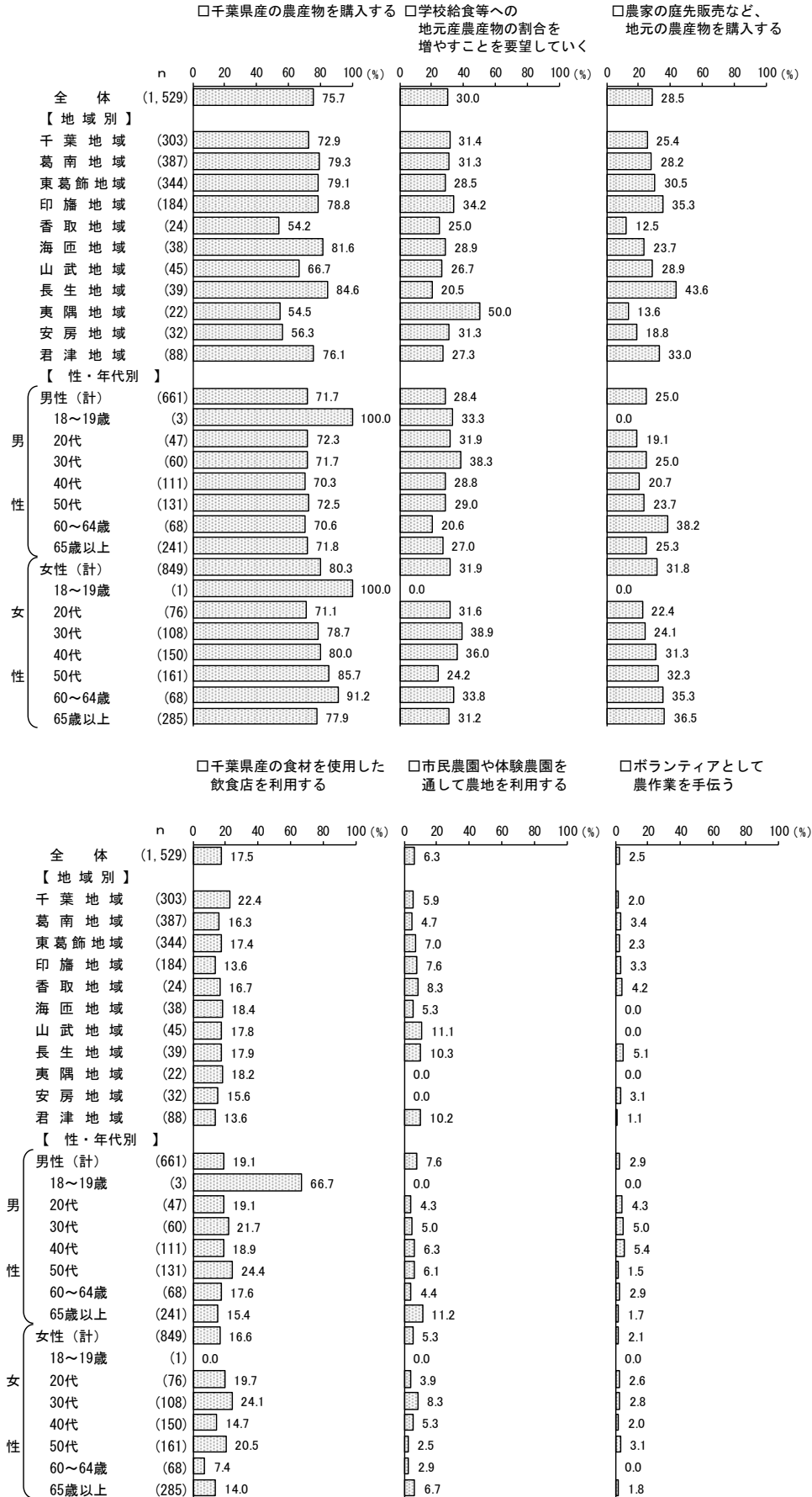
#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「千葉県産の農産物を購入する」は女性の60～64歳（91.2%）が9割を超え、女性の50代（85.7%）が8割台半ばで高くなっている。

「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」は女性の30代（38.9%）が約4割で高くなっている。

「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」は女性の65歳以上（36.5%）が3割台半ばで高くなっている。（図表9-6）

＜図表9-6＞都市農地を守るために行いたい支援／地域別、性・年代別

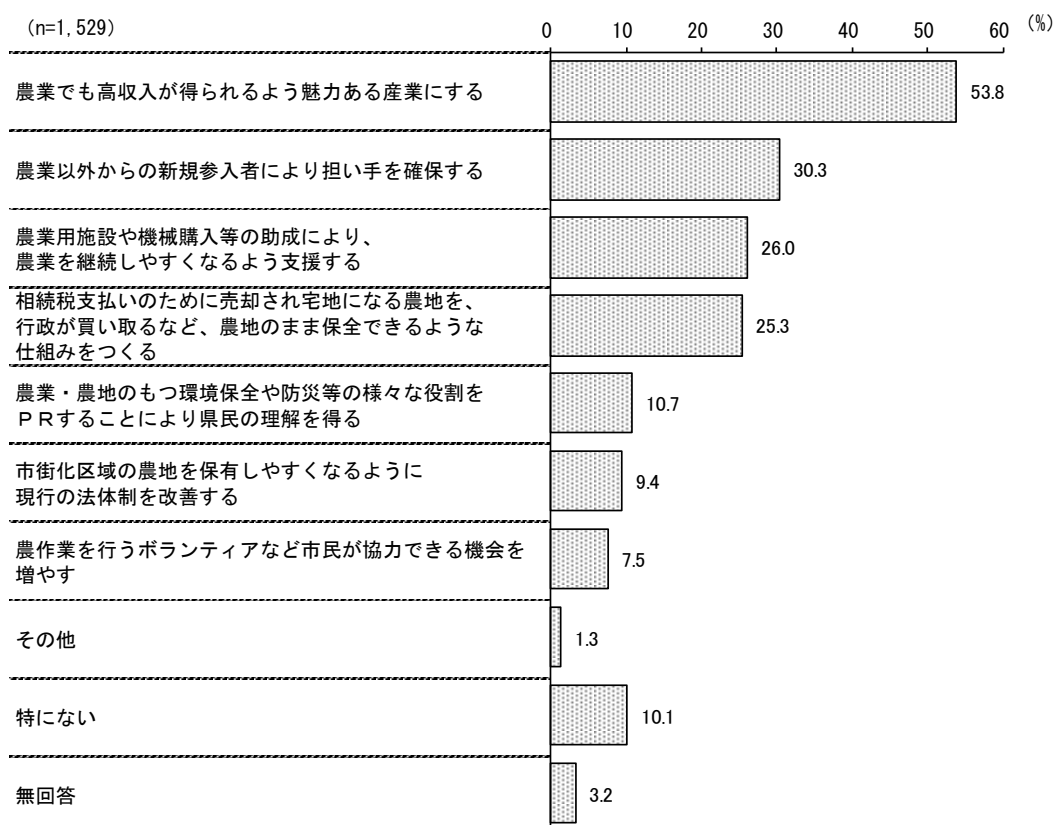


## （４）都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策

◇「農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする」が5割台半ば

問48 あなたは、行政が都市農地を保全するためにどのような対策を行う必要があると思いますか。（○は2つまで）

<図表9-7>都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策



都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策について聞いたところ、「農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする」（53.8%）が5割台半ばで最も高く、以下、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」（30.3%）、「農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する」（26.0%）、「相続税支払いのために売却され宅地になる農地を、行政が買い取るなど、農地のまま保全できるような仕組みをつくる」（25.3%）が続く。

（図表9-7）

### 【地域別】

地域別にみると、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」は“長生地域”（46.2%）が4割台半ばで高くなっている。

「農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する」は“香取地域”（45.8%）が4割台半ば、“印旛地域”（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。

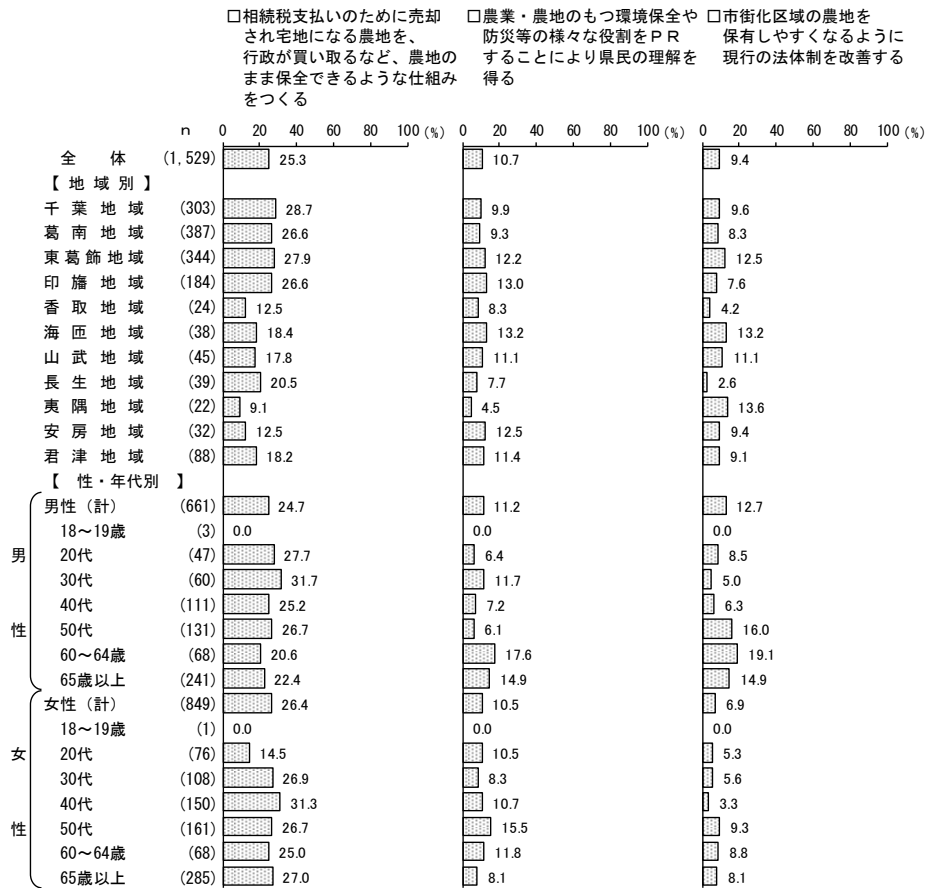
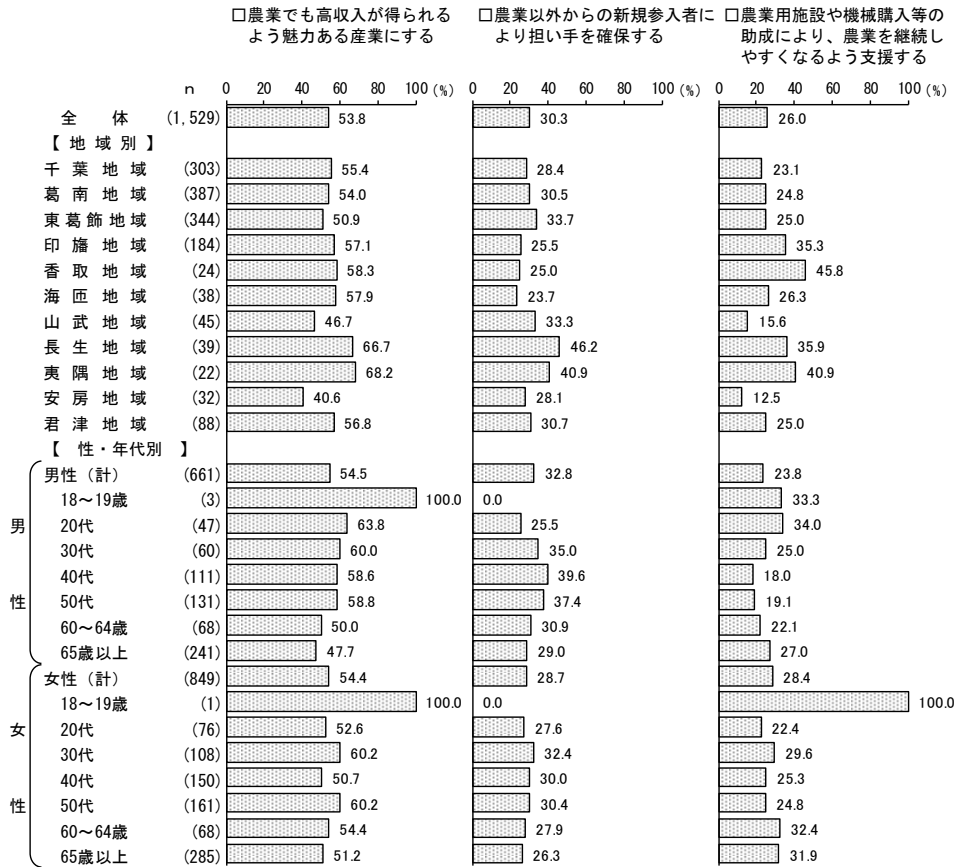
（図表9-8）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」は男性の40代（39.6%）が約4割で高くなっている。

「農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する」は女性の65歳以上（31.9%）が3割を超えて高くなっている。（図表9-8）

＜図表9－8＞都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策／地域別、性・年代別





このほかに、「都市農業について」やここまでの質問（問45～問48）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、104人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「都市農業について」の自由回答（抜粋）

- 子どもが産まれたら農業体験など自然に関わるイベントや機会が増えたら参加していきたい（芋ほりや落花生ほり、昔子供の時毎年やっていた）。（女性、20代、印旛地域）
- セカンドキャリアとして都市農業に興味はあるが、それらを知る術がない。SNSなどでの発信、説明会や講習会、体験会などが身近であったら参加したい。（女性、30代、印旛地域）
- 農業に関しては、興味はあっても専門にするには二の足を踏む人が多いと思うので、バイトなどのダブルワーク等で携わるキッカケがあれば少しは人が流れたりするのかなと思います。都心部で自然と触れた仕事をしていると土（自然）に触れたいと思うことがあるので、個人的には需要はあるのかと思います。（男性、30代、印旛地域）
- 地産地消を推進する為に購入施設を増やしたり、体験農園の活用により農業に興味をもてるようにしてほしい。（女性、50代、海匝地域）
- 市民が月ぎめなどで利用できる農地を増やしてほしい。ふと作物を育てたくなる瞬間はあるが、土地がない。農作の潜在需要はあるのでは。一度、県民に調査してほしい。せっかく土地が安いのだし。（男性、20代、葛南地域）
- AIの活用、後押し。後継者がいない人のために、AIを活用して株式会社方式にして収入の安定化など、若者が参入しやすいように後押し。（女性、30代、葛南地域）
- 新規参入希望者が農地を購入したり、その地域に住宅を確保したり出来ない現状があると思います。農村地域は開かれていないと感じます。市街化調整区域等の区分により住宅が建てられないわけで、若い新規参入者を阻んでしまっています。（女性、60～64歳、印旛地域）
- 耕作放棄地の増加、農家の高齢化等々、問題山積み。収入の安定、担い手の確保等の為、税制面での優遇を。（女性、65歳以上、安房地域）
- 都市型農業は、自然環境の保全の役割を果たすとともに、地元の新鮮な食料を確保し、食べることが出来るといったメリットがある。食料をなくして人は生きることが出来ない。印西に「白鳥の里」があるが、本来、ヒトは動物と共存して生活していくものである。都市農業とは、そのような自然の醍醐味を人々に認知させる役割も持っているのではないだろうか。（男性、50代、千葉地域）